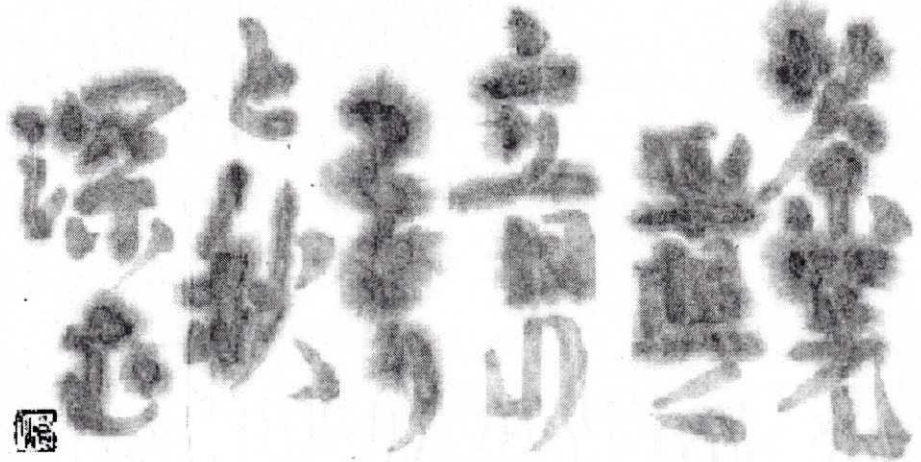




う
羽
化
か

1999年10月
第16号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
編集責任者 宗 助 悦 子



目 次

署名への御礼と中間報告（岡田 健嗣）	1
漢点字図書保有状況の調査結果についての考察	2
点字の読みづらさと漢点字の触読について(4) （岡田 健嗣）	4
イラスト版「漢点字ってどんな字？」(15)	11
連載「点字から識字までの距離」(15)（山内 薫）	17
漢点字変換ソフト「EIBRK」について（木下 和久）	19
文字の「文」の字源とその体系 白川静さんの字統から （伊藤 邦博）	23

署名への御礼と中間報告

代表 岡田 健嗣

本会では、この八月から、漢点字公認運動へ向けての署名活動に参加して参りました。本誌の読者の皆さま並びに会員のお力で、予想を超えた反響とご署名をいただくことができました。心より御礼申し上げます。活動はまだまだ継続しております。お一人でも多くの方のご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

本誌『うか』第十四号（前々号）に、鳥取県の野島静先生から、「漢点字の公認にかける決意」という文をお寄せいただきました。先生はそこですまず、署名活動をを通して、視覚障害児（者）の文字教育の現況を広くご存知いただいて、その証を署名の形にまとめ、文部大臣を初め、各関係機関に請願することで運動を進めたいというお考えを披瀝されました。そして直ちに署名用紙を作製され、全国的な展開に移られました。署名用紙には請願の要旨が記されておりますが、それを集約しますと、

①義務教育のなかで、国語の教育は最も重要なもの

であるが、その中でも漢字の教育は、けして欠かせない要素であること。

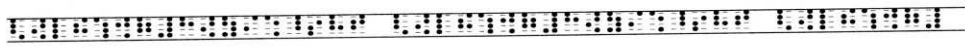
②にもかかわらず視覚障害児には、これまで漢字の教育は全く行われて来なかつたばかりでなく、現在もほとんど考慮されていないこと。

③今日では、触読文字の点字に、『漢点字』という漢字の体系ができていて、その構成は、点字の符号を漢字の部首に対応させた形である。この点字体系を教育の現場で教えることで、視覚障害児も漢字を学び習得することが可能になったこと。

④一般に、人が社会の一員として責任を果たし、権利を行使するには、言葉、とりわけ文字の理解と使用者にも、それは同様に求められるはずである。しかし現状は、そのような環境が存在していないこと。

⑤以上のことから、視覚障害児（者）への漢字教育の充実がはかられる必要があり、その方法として、『漢点字』を採用されるべきであること。ということになるうかと存じます。

先生の呼びかけに承えて、「盲教育に漢点字の導入をすすめる全国協議会」が組織され、この署名活動が始まりました。口から口へ、手から手へ、読者諸氏や会員の手を放れて、町内会や商店会、あるいは企業な



どの職場において、沢山の方々のご理解を賜り、ご署名いただいております。

年明けを目安に集計して、請願の日程をまとめたいと考えております。皆さまの一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます、御礼に替えさせていただきます。



漢点字図書保有状況の調査結果についての考察

野島 静（鳥取県）

この調査は平成11年4月下旬に、全国の点字図書館83館と、盲学校（視覚障害者、生活・職業訓練施設を含む）73校に対してお願いし、5月末日までに回収したアンケートをまとめたものである。図書館並びに盲学校ともに80パーセント以上の回答を得られたことで、当初の目的は果たせたと思っている。

別表をご覧いただければ一目瞭然と思うので、あえて細かい分析はしないで、この表を見て私を感じたことを1、2述べるにとどめる。

私は、図書館はともかく盲学校については、全国の半分以上に漢点字書がゆき届いているであろうと推測していた。そして、漢点字図書を保有している学校には、主として医学書（理療科用図書）が多く備えられているであろうと思っていた。その点、私の推測とはかなりの隔たりがあった。また、図書館、学校ともに児童読み物の保有率が際立って低いことは、全般に漢点字の初歩指導ないし、低学年にたいする漢点字指導がなされていないことを示す証拠ではないかといささか寂しい思いがした。

漢点字図書保有状況調査結果

漢点字図書の有無

	図 書 館		学 校	
	有	無	有	無
アンケート総数	83	100%	72	100%
有	41	49	25	35
無	32	39	33	46
無回答	10	12	14	19

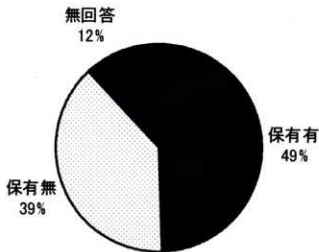
タイトル分類

	図 書 館				学 校			
	所有館数	タイトル数	1館当り	%	所有館数	タイトル数	1館当り	%
医 学 書	4	35	9	5	5	27	5	18
文 学 書	17	372	22	52	8	40	5	27
児 童 図 書	5	22	4	3	3	4	1	3
辞 書 類	31	140	5	20	20	61	3	41
一般教養書	18	142	8	20	4	16	4	11
総タイトル	41	711	17	100	25	148	6	100

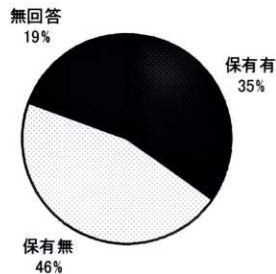
(%及び1館当りは四捨五入)

漢点字図書の保有率グラフ

《図書館》



《学校》



点字の読み（ひんじや漢点字の触読）について（四）

代表 岡田 健嗣

三 点字の触読について（つづき）

前号では、点字がどのように触読されるかを考えてみました。今回も続けたいと思います。

その前に、前号で述べたことをまとめてみますと、

(1) 点字は、指に触れて読まれるのであるが、点の数や位置を読み取って読まれるのではなく、指に触れた瞬間に『分かる』ことで読まれているのである。

(2) 上記の方法に失敗して、点の数や位置を読み取ることで読もうとする時、読み手は触読に大きな困難を感じる。

(3) ブライユの点字符号表（表一）では、点字の六つの点の組み合わせ六三通り（フリーは除く）が、一定の順序に配列されている。

(4) しかし瞬時に『分かる』ためには、六三通りの符号の分別は困難ではなからうか。もっと少ない数の分別が行われているのではなからうか。

(5) 例えば、合わせて六つの点になるかず、一つと五つ、二つと四つ、三つと三つという組み合わせの言わばポジとネガを一对として見れば、分別の対象は32通りになってその幅を縮小できる。

* * * * *

ドットからフォルムへ

もう一つ、点字を触読する者として、私は何時も感じていたことがあります。本誌第十号の「点字から識字までの距離（九）」（山内薫著）で紹介されている木塚泰弘氏は、「点字の大きさと読み」についての考察を処々で発表されました。氏は、「点字の触読は、その能力が高まるほど読みの速度も高まる」という一般論から、「点字の触読は、その速度が高まるほど上達している」と結論づけておられます。そしてそこから点字の速読の要件を幾つか挙げて、上達度の基準としておられます。私はその結論を可とすることができませんが、要件の一つ（点字の図形化）については肯定しております。私は、先にも述べましたように、点字がうまく読める時は、ほとんど瞬時にその点字符号が『分かる』のであって、点の数やその位置を比較し

判断して読んでいるのではないということ、点の組み合わせである「点字」であっても、『点』の集合として認知しているのではなく、六つの点が形作る「象」として認知して読んでいるものと考えています。木塚氏も、触読の上達者は、指に触れた六つの点を、図形として認知していると言っておられます。従って、私の『フォルム化』は氏の「図形化」の概念に依拠したものであることは言を待ちません。

表二―は、表二の点字符号の点を、天空の星座のように点と点を線で結んでみたものです。それによりまずと、(⋮)は日の字の形に、(⋮)は日の字の右上角を斜めに切り取った形に、(⋮)はカタカナのコの字の形に、(⋮)は口の字の形に、(⋮)は大文字のし字の形に、(⋮)はひらがなのつの形に、(⋮)は二の字の形に、(⋮)はひらがなのくの字の形になつて、それぞれの符号が一つのフォルムを形成することが分かります。

私は、私たちが点字を触読する時、瞬時に『分かる』ことで読み取れると申しました。すなわち、木塚氏のおっしゃるように、点字の触読に上達すれば、点字を図形として感取できるようになりますし、読みの速度も増しします。しかし、上達者も必ずしもそのように読み取れる場合ばかりではありません。

私はそのメカニズムを、このように考えます。点字の六つの点の組み合わせをフォルム化して、脳の中に予め用意します。新たに点字を読もうとする時は、指からの情報をフォルム化して、脳中のそれと照合します。逆に、読み手の健康状態や周囲の騒音等の環境によつて、知覚した点字の点の情報をうまくフォルム化できずに、脳のフォルムとの照合に失敗することもあります。そのような場合には、文字通り点字を点の集合として読み取らなければなりません。その時は、大変な困難を感じるようになる、というのです。

ところで前掲の、「点字から識字までの距離(九)」で取り上げられた『点字のサイズと手触り』(「日本の点字 第二三号」 日本点字委員会 一九九八)で木塚氏が紹介している各国の点字のサイズ(前掲書、参照)によると、日本の点字は欧米のものに比べて一回り小さいことが分かります。欧米では、両面印刷の際、インターポイント(片方の面の点字の点と点との間に、他方の面の点字の点を打つこと)を考慮してか、横幅が広く採つてあります。氏も言われるように、点字のサイズが小さい場合、ややもすると二点、三点が区別できなくなり、また逆に、そのサイズが大きくなり、点字の組み合わせを図形(フォルム)として認知できずに、一点一点よみとら

なければならなくなります。この間のサイズが、点字の許される大きさということになるのでしょう。

以上のように、視覚障害者が点字をテンテンでできたものでなく、フォルムとして読んでいるとして、晴眼者の皆さまも点字をご覧になる時、その点と点をトレースしてみたいかががでしうか？幾分か点字を身近に感じていただけるかもしれません。いやいや、火星人の文字に見えて来るかもしれませんね！

* * * * *

隠された点字、四点点字と三点点字

私たちが点字を触読するという時、その点字符号に指先が触れて、その符号が何の字であるか瞬時に『分かる』というのが、この論の出発点でした。指に触れた途端に『分かる』ことで、辛うじて点字が読めていると言っても過言でないほどに、点字の読みには困難が付いて回っているのです。

これまで六つの点の組み合わせ六三通り（フリーは除く）を、いかに瞬時に読み取ろうとしているか考えて来ました。一つは六つの点の組み合わせによる点字符号の対化です。合わせて六点になる符号を二つ対に

することで、分別の幅を半分に縮小しているのではないかと考えました。

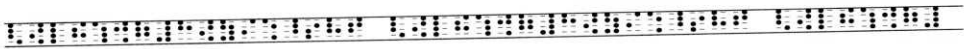
二つは、点字符号のフォルム化です。点字の符号を点の集合ではなく、象として読み取っているのではないだろうか。点の組み合わせを想像の線で結ぶことで、フォルムを与えることになるのではないだろうか、というのです。

ブライユの点字符号表（表一）を見ておきますと、もう一つ大きな要素に気付かされます。

ブライユの点字符号表は、六三個の点字符号が、一定の順序で配列されています。しかし、順序に類別できるものとそうでないものとを大別してもいます。一番から五〇番までは、大変秩序だった配列になっています。それに対して、五一番から六三番までが、その類別に合わないものとして、別に扱われて収められています。

一番から五〇番の秩序とは、一番から一〇番の符号を基本として、それに一定の約束に従って点を付加したり位置を変えたりすることです。

もう一度点字の構成を考えてみましょう。点字は六つの点で構成されています。縦三つ、横二列です。

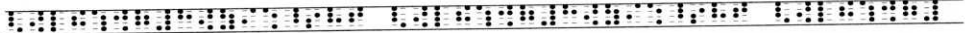


【表一】

ルイ・ブライユの点字符号表

1.										
	1a	2b	3c	4d	5e	6f	7g	8h	9i	10j
2.										
	11k	12l	13m	14n	15o	16p	17q	18r	19s	20t
3.										
	21u	22v	23x	24y	25z	26	27	28	29	30
4.										
	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40w
5.										
	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
6.										
	51	52	53	54	55	56				
7.										
	57	58	59	60	61	62	63			

ENGLISH BRAILLE, AMERICAN EDITION 1977:
American Printing House for the Blind



ブライユの点字符号表の一番から一〇番は、六つの点の上四つだけを使って構成されています。四つの点の組み合わせの数は、フリーを含めて一六通りです。その中の一〇個を基本的な点字符号としたのです。

というのが従来の説明でした。しかしもつとよく見ると、ブライユの考えた点字は、本来四つの点でできていたのではないだろうか、と思わせるものがあります。と申しますのは、点字を触読する者として、私には、四つの点だけで構成されている点字と、六つの点で構成されている点字では、その触感が異なっているからです。そして、四つの点字が六つの点字との区別を求めて、自己主張しているように思われてなりません。

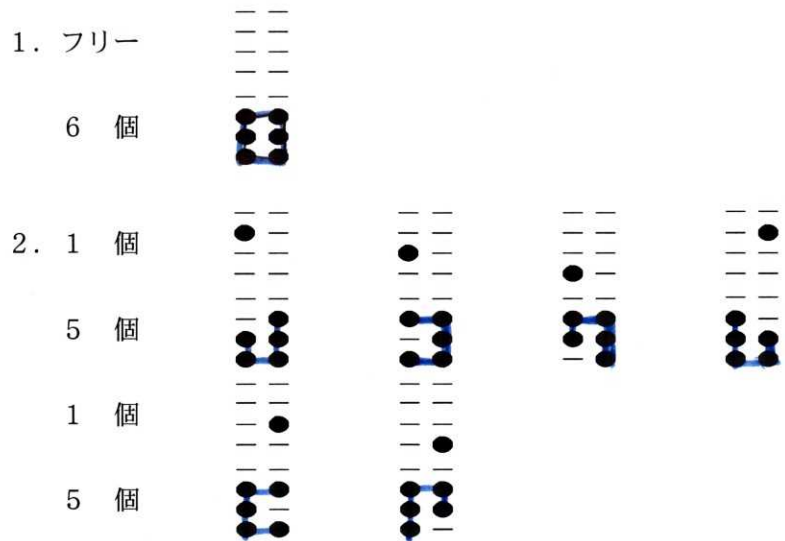
また、右三点の点字符号があります。これは必ず二マスの点字として用いられるものです。これも点字の大きな特徴の一つである（前置符号）としてだけ用いられる符号です。

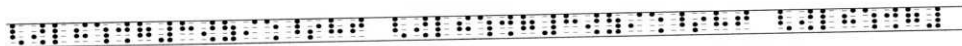
表三は、ブライユの点字符号表から、四点からできている点字符号と、右三点でできている点字符号だけを取り出したものです。

（以下次号）

【表二'】

点字符号のポジとネガ





【表二'】 続き

3. 2 個



4 個



2 個



4 個



2 個



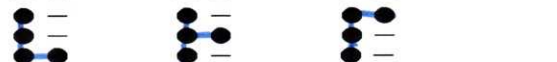
4 個



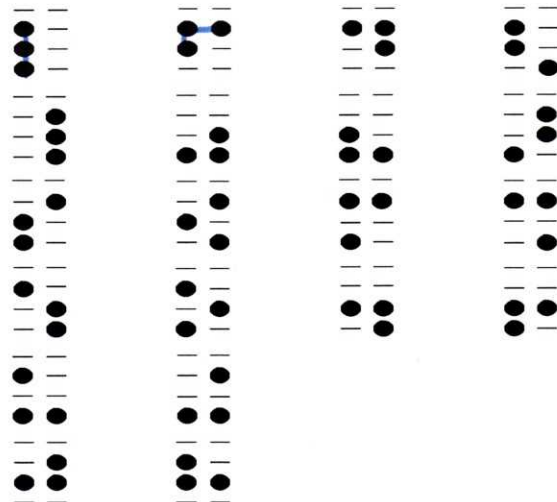
2 個



4 個




4. 3 個





【表三】

四点点字と三点点字


UPPER SIDE 4 DOTS BRAILLE

1. 
1a 2b 3c 4d 5e 6f 7g 8h 9i 10j

LOWER SIDE 4 DOTS BRAILLE

5. 
41 42 43 44 45 46 47 48 49 50
6. 
55 56

RIGHT SIDE 3 DOTS BRAILLE

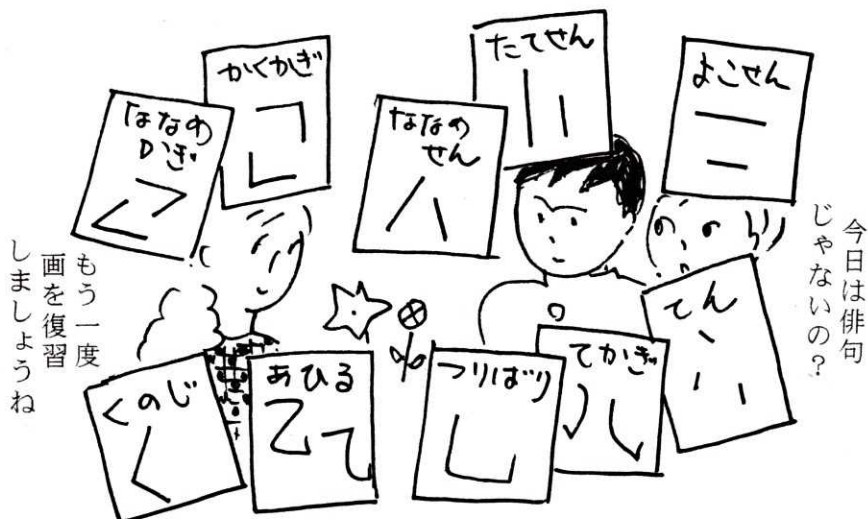
7. 
57 58 59 60 61 62 63

LEFT SIDE 3 DOTS

- 

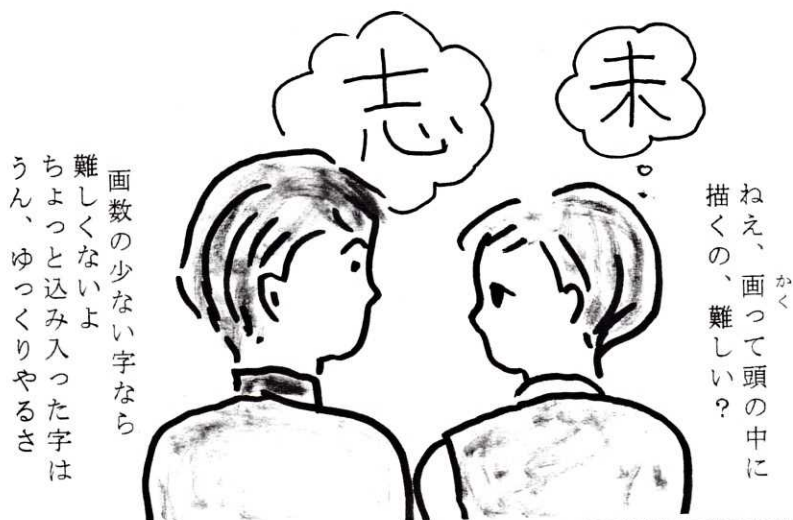
※ イラスト版 ※

漢点字ってどんな字？ 15



今日は俳句
じゃないの？

もう一度
画を復習
しましょうね



ねえ、^{かく}画って頭の中に
描くの、難しい？

画数の少ない字なら
難しくないよ
ちよっと込み入った字は
うん、ゆっくりやるさ

復習 十の画 かく


~~~~~  
 志 志朗(しろろ)君  
 未 未来(みき)ちゃん  
 お おねえさん  
 ~~~~~

カタカナと十の画

お 未 志
 カタカナからやりましょうか
 カタカナにも十の画はあるの？
 画の一つ一つ、入っている字を
 書き出してみるね


横線 (長さの異なる横線)

ラ	ヒ	サ	エ
ロ	ホ	チ	オ
ヲ	モ	テ	キ
	ユ	ナ	ケ
	ヨ	ニ	コ

 18コあるよ

縦線 (長さの異なる縦線)

ホ	イ
ホ	エ
ロ	オ
	サ
	ト

 11コあるよ

斜め線 (左右の斜め線)

ン	ツ	ケ	イ
	ノ	ン	オ
	ハ	タ	カ
	メ	チ	キ
			ク

モット
 おじょうじ...



お 未
 「へー」は斜め線ではないの？
 「へー」は一画の字で
 斜め線二つではない
 から注意してね



角かぎ (上下二つの角かぎ)

セ コ
ヒ ュ
モ ヨ
口



ク
たいけい

斜めかぎ (上下二つの斜めかぎ)

ム マ セ ア
ル ヤ タ ウ
レ ラ ヌ カ
ワ ネ ク
ヲ フ ス



ク
たいけい

未
ルレも入れると

斜めかぎは
18 コもあるよ



点 (縦、左右の斜めの点)

ミ ト ウ
ム ヌ シ
メ ネ ソ
ン ホ タ
マ ツ



カタカナにはない画
漢字にはない画

志

未

お志

志

カタカナはこの六つの画からできて
いるんだ
「てかぎ」「つりばり」「あひる」
がないけど、これはみんな曲線だね
カタカナは直線的なものね
直線だけど、「くのじ」もない

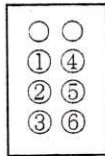
「へ」は、何になるのだろう？
「へ」は山型を一筆で書くから
漢字にはない画よ
そうか、カタカナには
「くのじ」の画はないけど、
「へのじ」の画があるってわけだ

カタカナだけで 書ける漢字

お
この六つの画は漢字の中に含まれて
いるわけよね、ということではカタカ
ナだけで書ける漢字もあるってこと
かしら？
あるある、たくさんあるよ！

未
前にもやったけど、まず漢字とカタ
カナのそっくりさんを書くわね

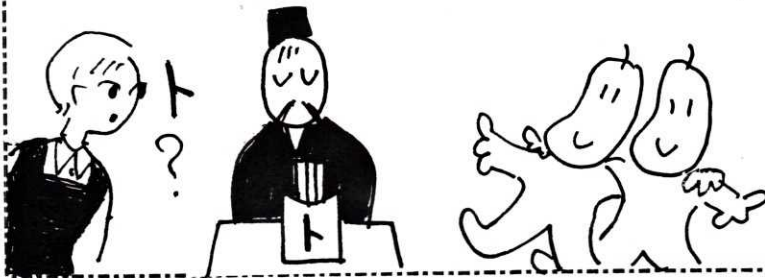
* * * * *
以下の「」内の仮名は漢点字符号
の下6点を仮名読みしたもので、
数字は仮名読みので
きない点字符号の点
の位置を示します。

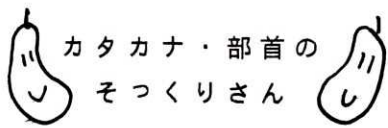
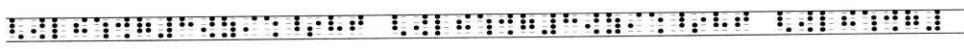


☆ 十の画とカタカナの関係は、視覚障
害者が漢字の形を知るのに有効な手がか
りになると思われれます。宮下久夫先生の
「漢字の組み立てを教える」(太郎次郎
社)を参考にさせていただきました。

漢字・カタカナそっくりさん
カタカナ 漢字

口	ハ	又	ニ	ト	夕	カ	工
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
口	ハ	又	ニ	ト	夕	カ	工
⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
[レ]	[56リ]	[4 235]	[56イ]	[2ト]	[ホア]	[又]	[コア]





カタカナ・部首の
そつくりさん

ワ	ウ	ネ	ソ	シ	イ
↓	↓	↓	↓	↓	↓
わかんむり	うかんむり	しめすへん	にすい	さんずい	にんべん



江戸時代 外国の化学

お未
「江戸時代、外国の化学」、なにこれ？
実は「シエウ時代、タト国のイヒ学」つ
て書いたのよ
そつくりさんは、部首にもあるのよね



お

未

志

未

じゃあ、いろんなカタカナを組み合わせ
わせてできる漢字を書いてみて



レウ

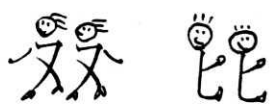
3つのもあった！

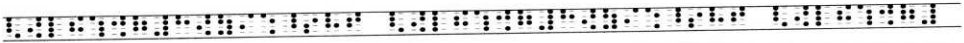
3の印

竹と比は、一マスだけど、
多と双は、同じ符号をくりかえす
二マスの漢点字だね

又	タ	ヒ	ケ
又	タ	ヒ	ケ
↓	↓	↓	↓
双	多	比	竹
⋮	⋮	⋮	⋮
[235]	[235]	[45]	[フ]

同じカタカナ2つでできる字も
あるわ





カタカナで書く漢字

仁 (イニ) ㇿ ㇿ ㇿ [46]

化 (イヒ) ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ [46 45]

加 (カク) ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ [ㄹ]

名 (タロ) ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ [ホ]

占 (トク) ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ [ㄹ]

只 (ロハ) ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ [ㄹ]

穴 (ウハ) ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ [ウ]

公 (ハム) ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ [6]

江 (シエ) ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ [456]

外 (タト) ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ [ホ]

労 (ツワカ) ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ [36ㄹ]



沿 (シハク) ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ [ニエ]

お

志

未 志

たくさん出してくれたわね、カタカナが漢字の一部になっていることがよくわかるわね
次回は、画のことをもう少しやりましょうね



ウハエで

空

ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ

[ウキ] だ

伝

ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ

[ナ]

はいニム

仏

ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ

[46ㄹ]

はいムで

ずいぶんあるね！
これだけじゃないわ

原案 岡田 / 絵 吉田

点字から識字までの距離 (一五)

山内薫 (墨田区立緑図書館)

最近「学習障害」(LD)という言葉をよく耳にするようになった。学習障害というのは、中枢神経系に何らかの小さな異常があるために、知能全般には遅れがないのに、ある分野だけ非常にアンバランスに認知能力が低く、たとえば、視力に異常もなく、授業を聞けば高度な概念も理解できるのに、字を読むのが難しい人、聴力は正常なのに、耳から聞いたことがなかなか理解できない人、平仮名はだめでも漢字は読める人などがおり、なかには「一メートル、一時間といった連続的な量の概念はすぐにわかるのに、ミカンやお餅の一個二個は、かなり回り道しないとわからないため、微積分や統計学はわかるのに、レジでお金を数えて出すのは大変で、ついカードや万札を出してしまいう人」もおり、それぞれに、何が難しく何が易しいかが、全く違ふと共に、同じ困難を持った人でも、有効な手だては人それぞれで、本が読めないという人でも、録音図書を聞きたい人もいれば、バックに特定の色がついていれば読める人、行間に罫線がひいてあれば読める人と、個々のニーズもまた大きく違ふという。

こうした学習障害の内、特に読み書きの障害を「デ

イスレクシア」と呼んでいる。たとえば、文字を一字一字指で押さえて読む子どもや、文章を細切れに区切って、同じ所を何度も繰り返し返して読んでしまう子ども、鏡文字を書く子どもなど、知的障害があるわけでも、日常の適応行動に問題があるわけでもないのに読みにつまずいてしまう子どもがおり、脳の左右半球の連結が不十分であることが原因と推定されている。

歴史上の人物でもレオナルド・ダ・ヴィンチ(鏡文字)やトーマス・エジソン(彼が書いた手紙は綴りや文法が生涯滅茶苦茶だった)等がデイスレクシアだったと言われている。

読み書きの問題の他にデイスレクシアの子どもには右、左がよくわからないなど方向の混乱があったり、時刻を言うのが遅れたり、一二月の名前、一日の出来事等を順序正しく並べるのが不得意だったり、人や物の名前を言うのが苦手な子どもが多いという。また、人口の四%が左利きであるのに対して、デイスレクシアの子どもの二五%が左利きで、利き手が安定するのが遅い子どもが七〇%に達し、さらに九〇%の子どもの近親に左利きがいるという。その他の特徴として、集中するのが苦手、黒板を写すのが苦手、準備するのが下手等が挙げられている。

人には利き手と同じように利き目があり、優位な目

は見ることを制御し、見たいものの方へもう一方の目を導いてゆく。利き目を見つけるのは簡単で、子どもに真ん中に穴のあいたカードを両手で持たせ、それを顔に近づけて穴を覗かせたときに、覗いた方の目が利き目である。私たちでもカメラのファインダーをどちらの目で覗くかを見れば簡単にわかる。典型的なデイスレクシア子どもは、利き手と利き目とが逆であることが多く、右手利きで左目利き、あるいは左手利きで右目利きなどの交差側性だと、手が書こうとする方向と目が見ようとする方向の間に混乱が生じる。また耳にも優位耳があり、多くの人は言語を聞くための優位耳は右で、音楽や葉っぱのサラサラというような非言語的な音を聞くときには左耳が優先するというが、デイスレクシアの子どもの四五〇%が言語については左耳優位もしくは両耳型であるという。

すでに述べてきたように、多くの人の脳では言語は主として左半球で処理され、右半球にも言語野があるが、これは左半球よりも小さく、言語情報を処理したり統合したりすることあまり貢献していない。右手利きの人の九五%は左半球に言語処理機能が存在するが、デイスレクシアの脳の場合に両半球に言語野が平均して分散しており、両半球の言語野を結び脳梁の神経細胞束で神経信号がいわば交通渋滞を招いて混乱す

るために、言語を理解したり表現したりするのを難しくしているのではないかと予測している。試しに仮名でもアルファベットでもよいから、意識的に逆さ文字（鏡文字）を書いてみて欲しい。その時に起こる脳のなかの混乱がお分かり頂けると思うが、デイスレクシアは、字を書いたり読んだりするときに常にそうした混乱を経験しているのではないかと思う。

さて、デイスレクシアはアルファベットを使用する言語圏に非常に高い頻度で報告され、アメリカでは調査人数の一〇から一五%にも及ぶと言われているが、日本では三%程度という調査報告もある。その要因として日本の仮名は表記と発音の間が一对一对応で英語のように不規則性がないこと、アルファベットのb、d、q、p等のように仮名が鏡文字として認知されにくいこと、漢字と仮名とを混在して使うという独特の表記形態を持つていることなどが挙げられている。点字の右手読み、左手読みにもこのデイスレクシアと関わる部分があるのだろうか。

〔参考文献〕『読み書き生涯の克服』デイスレクシア

入門』ビーブ・ホーンズビー著 苧阪直行 他訳

協同医書出版社 一九九五、「障害者の情報アク

セスと著作権法改正を考えるシンポジウム」配布

資料一九九九、六、四

漢点字変換ソフト「EIBRK」について

木下 和久

この度漢点字変換ソフト「EIBRK」のバージョン3.00が完成しました。そして、さらにウィンドウズ版の「EIBRKW」バージョン1.00も完成しました。この機会に、このソフトについて一般的な概要をご紹介します。

EIBRK (エイブルケイ) の前身はEIBR (エイブル) という漢点字変換ソフトです。吉田映さんという方が開発されたもので、N88BASICで作られました。この中で最も基礎的な漢字と漢点字の対照表を作られたのが、本会の代表である岡田健嗣さんです。岡田さんが大変な努力をされて、一つひとつの漢字コードと漢点字符号とを対照したデータをコンピュータに入力されました。その数はJISコードの第1水準、第2水準すべての6349文字です(最近新しいJISコードに合わせて6文字を追加しました)。

漢点字変換システムはこれらの漢字のほかに、従来の仮名点字体系で使われている仮名、英数字やJISコードに規定されている各種の記号が含まれます。EIBRKは、これを使う方の使いやすさを念頭に、

各種の工夫がなされています。その最も大きな特徴は、変換された点字とそのもとなつた墨字(テキスト文)を直接一対一の位置に対応するように画面表示していることです。これにより、漢点字そのものを全く知らなくても、テキスト文を入力して変換し、点字印刷されたときのページ内のレイアウトを確認することができます。そして、漢点字の形を目で確認することもできます。そして、その画面のまま、文字の挿入・削除という編集をすることができます。挿入された文字は、その場で漢点字に変換・表示されます。(ただし、編集は前後の文字の連なりを無視した形での変換です。で、後に全体を再変換する必要があります。)

画面の表示には二つのモードがあります。上のようにテキストの行と点字の行が交互に表示されるものを「S(スクリーン)モード」と呼びます。このモードは、晴眼者の方に使い易く設計されています。もう一つは「B(ブレイル)モード」と呼ばれ、音声装置とピンディスプレイに同時に表示されます。このモードでは、画面にはテキストの行と点字の行が1行しか表示されません。音声表示やピンディスプレイ表示の速度を考慮したためです。このモードは、視覚障害者の方に使い易く設計されています。

変換の際の細かい文法上の約束事は、ほとんど変換

ソフトが自動的に対応します。そのため点字を知らない人でも、テキスト文を入力して、それを漢点字に変換して点字プリンターで打ち出すこともできます。しかし、漢点字と仮名点字で忠実に漢字仮名交じり文を点字の文章として表現できても、墨字の文章の約束事をそのまま点字に表せるわけではありません。特に各種の記号類は点字で表現できるものに置き換える必要があります。また普通半角で表している仮名や数字も、すべて全角を使わなければなりません。現在使われている点字プリンターの多くは、一行三二マスを打ち出しますので、点字の一行は墨字では非常に短いものになります。そうしますと、自ずと墨字の原文とは違つたレイアウトでテキスト文を入力する必要ともなりません。これらの入力上での約束事についてはいずれ稿を改めてご紹介します。そのような約束事が守られていれば、E I B R Kは全く自動的に忠実にテキスト文を漢点字文に変換します。そして、このような約束事を理解するには、やはりある程度の点字に対する理解が必要となります。そのために、われわれの仕事に協力していただけるボランティアの皆さまに、仮名点字は覚えていただきたいのです。

この度リリースしたE I B R Kのバージョン3.00は、開発言語をC言語とし、これまでのクイックベ

ーシックで開発したバージョンに比べると、機能が大幅に充実しました。例えば、タブ段落の設定を可能にしました。これは、ある段落について、すべての行頭にタブをつけたと同じ扱いにするもので、そうした段落の始めに半角で π を入れ、段落の終わりに π を入れます。そうしますと、これらの記号ではさまれた段落はすべて行頭に二マスのスペースが入り、その段落の途中で文字の挿入・削除を行つてもスペースの位置がそのまま行頭に保たれます。また、同じような方法で外国語の段落を設定することもできます。この場合は、その段落の開始位置と終了位置にそれぞれ半角の π を挿入します。こうして設定された外国語の段落の中では、アルファベットに外字符がつきません。

また更に、文の途中にいくつかのスペースが連続しているとき、その途中で次の行に移ると、次の行頭にくるはずのスペースが前の行末に蓄積されて、行頭に余分なスペースが現れないようになっていきます。逆に目的を持って、行頭にきても吸収されないスペースをおきたいときは、変換前のテキスト文では半角の π を入れておきます。このように、通常の文字は全角で入りますが、編集用の記号は半角を使うのです。

その他にもバージョン3.00で改良された点は沢山あります。前のバージョンをお使いの方は変換速度

がかなり速くなったことやメニューがスマートになったことに気づかれることと思います。

以上ご紹介しましたEIBRKシステムは、MS・DOSの環境で動くものですが、これが利用できるのは少し前のNEC製のパソコンで、PC9801・9821シリーズのものに限られます。しかし、最近ではNECも実質的に世界標準となったDOS・Vタイプを採用するようになって、今までのNEC独自のMS・DOSでは通用しなくなりました。そこで、機種依存性のないウィンドウズ環境で動くソフトの開発が急務となりました。ここにEIBRKのウィンドウズ版が誕生しました。

ウィンドウズ版のEIBRKは、EIBRKW（エィブルケイダブリュウ）と呼ぶこととし、今回リリースされたのはバージョン1.00です。これはウィンドウズ95あるいは98の環境下で動くもので、最近の高性能パソコンであれば、非常に快適な動作が確保されます。例えば、点字にして100ページほどのファイル1冊分のテキストファイルから漢点字ファイルへ変換する場合、MS・DOS版の時2〜3分かかったものが、ほとんど瞬時（0.5秒ぐらい）に完了します。また、画面も標準で点字変換画面（MS・DOS版の点字行とテキスト行を1行おきに表示した画面

と同じもの）と、テキストファイルのエディタ画面が同時に表示され、それぞれ好みに応じて画面一杯に拡大して編集することもできます。したがって、テキストファイルのエディタ（いわゆるワープロソフトと同じもの）でテキスト文を入力して、直ちに漢点字に変換して結果を確認することが出来ます。ただ、現在のところここに内蔵されたテキストエディタの性能がやや低いので、改行マークや改ページマークが表示されないとか、少しファイルが大きくなると、表示はできないが文字の挿入・削除ができないとかの不便さがあります。この件に関しては、今後の課題として次のバージョンで改良して行きたいと考えています。

内蔵エディタの不備を補うものとしては、すでにお使いのワープロソフト（MSワードや一太郎など）とEIBRKWをそれぞれのウィンドウで同時に開いて、ワープロで入力したものをその場でテキストファイルに保存し（マウスで上書き保存をクリックするか、コントロール+Sをキー入力する）、それをEIBRKWで変換して（画面下にある「変換」ボタンをクリックするだけ）その結果を確認するというような使い方が便利かと思われます。

ウィンドウズ版では、ページ行の扱いが更に便利になりました。MS・DOS版では、ページ行の編集は

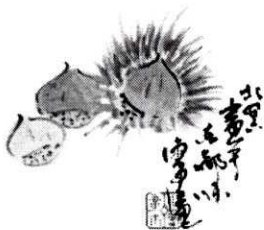
ファンクションキー（f. 6）を押してページ行編集モードに切り替える必要がありますが、ウインドウズ版ではページ行が常にページの最上段に表示され、ページ番号や原文ページ・標題などが本文と同時に表示されます。そして、カーソルをそこに移動するだけで、その内容を編集することができます。

なお、ウインドウズ版のEIBRKWを使うに当たっては、以下の点にご注意下さい。

①画面の解像度は少なくとも768×1024であること。少し前のウインドウズパソコンでは、15インチのディスプレイが多かったようですが、これは最大で600×800という解像度しか得られないものがあります。これですと、点字画面とテキストエディタ画面を同時に表示した場合、お互いに重ならないようにするにはそれぞれの画面をかなり小さくしなければなりません。

②添付のインストールプログラムでEIBRKWをインストールすると、画面に点字を表示するためのTBGAIJ・TTEとTBGAIJ・TTEという外字ファイルがインストールされますが、そのままではこれらの外字ファイルは利用できません。マニュアル（フロッピーディスクにあるREADME・TXT）の指示に従って行っていただければ、ウインドウズのシステムでこれらを使えるように登録できます。

以上EIBRKの新バージョンをご紹介しました。次号から、使用方法をご紹介致します。



文字の「文」の字源とその体系

白川静さんの字統から

小学校教師 伊藤 邦博

文字とは何か。日本語の特徴とは何か。このことを小学生に教える時、私は昭和44年に発行された「につぼんご7漢字」（明星学園国語部著）の定義を使う。

文字は言葉を書き表すための記号です。世界の国々ではいろいろな文字が使われています。日本語を書きあらわす文字には平仮名漢字、ローマ字とがあります。日本語の文はかな文字だけでも書けますが、漢字だけでは書けません。普通はひらがたと漢字との両方を使って書きあらわします。かな文字とローマ字は音を表す文字です。かな文字は音節を、ローマ字は単音をあらわしています。漢字は単語と単語つくりの要素とを表す文字です。一つ一つの漢字は音だけではなく意味も表しています。

これは日本語の特徴を的確に表現している。漢字指導はもちろん象形文字から指導をはじめ。象形文字について、このテキストでは次のように説明しています。

中国でも漢字ができる前から、すでに中国語がありました。その中国語の単語を書きあらわすための文字として、漢字がつけられたのです。というリード文のあとに象形文字の説明が続きます。

一番初めにできた漢字は、単語がさししめすものや、現象を描いています。このような漢字を象形文字といます。

文字は私たちになくてはならないものである。あたりまえのように使っている文字という複合語、これを構成する「文」と「字」の字源を白川静さんの労作『字統』（平凡社刊）を使ってあらためて調べてみた。私は「文」は土器の文様からきたとばかり思っていた『字統』で「文」を調べることはしていなかった。調べはじめて、自分の不明を恥じた。

文 古代文字は ㄨ

文身（ぶんしん）と読む、刺青のこと）の形、ト文（甲骨文字をさす。読みはほく、トとは獣や亀の甲羅を灼いてそのひび割れによって吉凶を占うこと。）、金文の字形は、人の正面形の胸部に文身の文様を加えた形。聖化のために朱などで加える文身をいう。

靈界に入る人を聖化するための方法として、その胸郭に朱色で記号を加えた形がある。記号としては生命の象徴である心臓の形を描いた。

しかし、白川文字学の凄いのには漢字を意味で体系づけることである。「文」の字義を文身つまり刺青と考えた後で、「文」の意味に基づいて漢字の系列を打ち立てるのである。これまで私はどんな辞書もその編集についての説明を詳しく読んだことはなかった。しかし、前回の原稿でㄨ（サイ 祝詞の器を指す）とその文字の系列を思い出し、ひよっとしてと思い、『字統』

の「編集について」を開いてみた。

文字の系列という章の、以下の指摘を読み直した。（以前読んでいたのだが、あまり理解できなかった。）

文字はその形によって意味を示し、その系列時は意味的な連関をもっている。ㄨに従うものは、載書関係の字として一系列をなし、それから分化したㄨ（レツ）、言、音、意、またはこれを音符とし声符とし、限定符とする数百の字の全体にわたって、一の体系をなす。このような文字の体系は、その時代の意識体系と対応するものであり、その表象としての意味を持っている。

そして具体的に、載書、占卜、巫祝、宗廟、祭祀、聖器、神梯、聖火、聖域、儀器、呪器、刑罰、獄訟、徒隸、鬼神、死霊、道路、殴打、呪霊、城郭、犬牲、軍札、農耕、天象、医術、歌謡など三六項目の文字の系列を打ちたてている。これらの項目は、古代社会はもちろん、現代でさえ人間が生きていく上で避けて通れない社会や意識の問題をたくさん含んでいる。

案の定、その中に「文身」を発見した。その系列字としては、その一部として次の漢字をあげている。

胸	文
章	産
彰	彦
斐	顔
爾	爽
兕	凶

この中からいくつかの字源を書き出してしてみた。

産 旧字は 産

厂(ひたい)の上に文を記し下に生を加えた字。人が生まれた時、その額にしるしをつけて、邪霊の依り憑くのを祓った。転生の祖霊を迎えるためである。

彦 旧字は 彦

青年の時にも厂の上に文をしるし、下に文彩を示す彡(さん)を加えた。

顔 旧字は 顔

青年時に加えられた文身を加えたものを顔という。文身を加えた額の部分をいう語である

爽 婦人の死者の場合は邪悪な霊が憑くことを

祓うために両乳をモチーフとする朱刺青を加えたことから古代文字は爽で、現在の爽

凶 口は胸部の形 その中央に文身としての父

形を加えた。枉死者(おうししや、冤罪で死ぬ。)の胸に分身を施すことによって、その邪霊が災いをなすことを閉じこめようとするもの。

匈 側身形の人の胸に父形の分身を加えた形。

胸 胸という字ははじめ匈であった。匈が後に形声文字の胸になった。

「文」の系列が「文」を分身刺青として解釈して、「文」を基底とした連通管のような構造になっているのがわかる。「文」という漢字から、次から次へと意

味を残しながらを新たな文字が作り出されていく構造がよくわかる。漢字は決して、無原則に作り出されたのではない。漢字は、漢字が作り出された当時の社会制度、習慣、人々の意識、風俗、宗教など、文化そのものを反映させ、体系だてられながら作られていったのだ。

私はこの作業を通して白川さんの仕事と漢字を作り出した古代中国人の営みに体が震えた。

「文」の系列を白川さんは次のように分析している。

おそらく古代の人は籀の字形のうちに新しい生命の受霊としての生育の儀礼、牋の字形のうちに若者としての年齢階級に達した成人の儀礼、また文や爽の字形に神霊として祀られるべき先人の姿をみたであろう。文字はそのように儀礼的映像を形象のうちに固定した記号である。

特定の宗教を持たない人も、無神論の人も、我が子が生まれた時、誰もが健やかに育つよう祈る。死者に対しては安らかに眠ってくださいと祈る。日本にもつい最近まで元服の儀式があった。森を見ればそこに霊

気や恐れや厳かさを感じたり、雪を頂く白き峰をみれば神々しさを感じたり。これらを思い起こすだけで、漢字文化のなかで生きている私たちには、白川さんの解釈に何ら違和感を覚えない。それどころかすばらしい説得力をもって迫ってくる。

漢字はきわめて人間的な営みの中から生まれてきたものであることと、私たちの意識や感性、生活に寄り添った存在であることがわかれば、漢字がもつと身近なものに感じられ、知的好奇心をもって楽しく学べるはずである。

次回は文字の「字」から「名」へ について考えてみたいと思っている。



秋日和（あきびより）腰曲りたる二度おぼこ

小倉 朔太

暑かった夏も終わってやって来た秋。さんさんと降り注ぐ日差しを浴びて老婆が心地良さそうに日向ぼっこをしています。今まで歩んできた波瀾に富んだ人世を思い返しているのでしょうか。時々独り言をつぶやいたりして。このお婆さん、気をつけて見ると大分おつむが呆けているようです。声をかけたりしないでそっとしておいてあげましょう。（朔）

二度おぼこ…年老いて子供のようになった女性

茶筌（ちゃせん）置く音のことりと秋深む

山田 太（ふとし）

茶筌とは云うまでもなく抹茶を点てる時に使う道具。秋の夜長のひととき。ここでは茶会ではなく、ひとりでお茶を点ているのでしょうか。夜も更けてかなり遅い時刻。茶筌を置くことりと音がして、その音に深まりゆく秋の気配を感じ取ったのです。茶筌の音に秋の深まりを感じるとは。いかにも日本人のわびの境地を詠ったものではありませんか。（朔）

編集後記

本号に掲載しております通り、漢

点字公認運動に対する署名を多くの皆様より頂戴いたしました。この場を借りて御礼申し上げます。

引き続き署名活動を続けて参りますので、ご賛同頂けます方は、署名用紙をお送りいたしますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。

署名用紙のご用命は、左記宛に電話あるいは、FAXにてご連絡下さい。

引き続き6点漢字・漢点字に対する御意見・経験談等、掲載致します。原稿は、千字〜二千字程度、テキストデータのフロッピーディスク或いは、手書き原稿（漢点字も可）をお送り下さい。テープ版・ディスク版をご購読の方は、返送時に同封して下さい。

【問合せ先】

電話 03・3613・3160（岡田）

FAX 045・821・4678（雨宮）

次回の発行は十二月十五日です。

宗助 悦子

*本誌（活字版・テープ版・ディスク版）の無断転載はかたくお断り致します。